

(質問) 6月2日(日)、激しい雨が降った中でも市内で唯一冠水被害を被つた、水害常襲地域、宮城野区白鳥地区を含めた福室排水区(※背面参照)に対する対応について伺います。この地域、何十年も水害に苦しめ、市内の中でも特に緊張感をもつて対応して頂きたいという思いで、私も議員になってからのこの5年間、しつこいと思われる何度も公の場で取り上げております。今回、七北田川に並行する和田新田堀(※背面参照)の水位が上昇し、道路への冠水が始まつても、排水ポンプを稼働させる担当者が到着せず、周辺住民から不安の声が上がりました。この堀の排水ポンプ(※背面参照)については大雨が予測され、水位の基準を超えた際に速やかに稼動できるよう、委託業者が現場で待機する認識でした。しかし、今回、現場に到着した時点で既に、周辺は乗用車が水没するかしないかのライン30cmまで達していました。本当に、周辺は乗用車が水没している。令和元年東日本台風では市内排水施設の機能不全が目立つたことに、それ以降、それ以降、それがございました。この6月2日、白鳥地区の事業の経過と改善策をお示しください。

(建設局) 当地区の内水排水ポンプの稼働につきましては、台風などの大雨予測時には、委託業者を事前に待機させていますが、今回のような局所的な降雨時は、和田新田堀の水位を遠隔で確認した上で、委託業者に配備の指示を出しております。6月2日の夜は近傍の消防局高砂分署で、19時30分から1時間間に33.5ミリの強い降雨を観測しました。職員が現場配備基準水位に達したことを確認し、19時55分には、委託業者に雨水排水ポンプの稼働を指示いたしました。その後、20時10分には和田新堀の流下先となる西原雨水ポンプ場のポンプ場が稼働し、20時50分には、白鳥地区的排水ポンプも稼働いたしましたが、水位の上昇が早く道路冠水に至つたものでござります。今回の件を踏まえ、降雨予報と遠隔での水位確認を加え、地域からの情報も生かし、委託業者とともに調整を図ることで、内水排水ポンプの早期稼動に努めます。

(文化観光局) クルーズ船の寄港につきましては、多くの乗客の皆様が市内で観光や買い物、食事を楽しまれることから、地域経済の活性化にも大きな効果があるものとのとて認識をしております。今後は、クルーズ船の企画社に對し、仙台港周辺を含めた本市の魅力を伝える機会を設けるなど、さらに多くのクルーズ船が入港するよう取り組みを進めます。

今年の仙台港のクルーズ船入港予定7回に対し、青森港は40回を予定!! 青森港へのクルーズ船は、今年過去最多の40回を行ない、地域経済の活性化にも大きな効果があるものとのとて認識をしております。今後は、クルーズ船の企画社に對し、仙台港周辺を含めた本市の魅力を伝える機会を設けるなど、さらに多くのクルーズ船が入港するよう取り組みを進めます。

仙台市議会議員勝田報告

令和6年7月発行 VOL30
phone 090-2275-3540
mail matsu.tamura@icloud.com



仙台市議会第2回定例会が6月25日に閉会しました。仙台市役所本庁の建替え工事費の追加など、およそ16億円の補正予算案を含む議案を提出されました。具体的には、市役所本庁の建替え工事の建替え工事費が物価の上昇により、追加で2億5,600万円余り。このほか、仙台市が今度おこなう「新型コロナワクチン」の接種費用として13億円余り。このほか、仙台市が今度おこなう「里親支援センター」を計上しておきます。



新本庁舎は令和10年度開院予定

【市役所の建替えって必要な?】現本庁舎の耐震限界を予測したところ、改修と建替えとの比較検討を行い、以下を理由に本庁舎の建替えを実施しております。

- ① 改修では行荷の分散化が難消できないこと
- ② 改修後の供用可能期間が不明であり、不確実性を伴うこと
- ③ 長期的には建替えが避けられないこと
- ④ 維持管理費の増加や分行舎の改修費等が発生し、経済性に乏しいこと

本会議 一般質問 [6月18日]

● 仙台港客船施設教科書の白並行区域に冠水田畠と市事新状況を含めた周辺区域への説明
● 6月北原雨水ポンプ場のキヤバシティへの説明
● 7月西原雨水ポンプ場のキヤバシティへの説明

【質問】 残念ながら、今年の仙台港へのクルーズ船の寄港予定は7回のみ。仙台港周辺の経済活性化を視野にクルーズ船を実施して頂きたい。

高砂・田子・鶴巻・岡田・中野・中野中学校・図書室・音楽室・アコギ工房整備完了予定

8月末を目標に大型まで設置

今年度 来年度
もう1機追加!



青森港のクルーズ船ターミナル

七北田川に並行する和田新田堀のキャラシティについて

現在、福室排水区の雨水を仙台港に排水する西原雨水ポンプ場の増設を令和9年度供用にむけ、莫大な予算を計上して複数年にわたり整備を進めています。これにより、福室排水区、仙台港周辺の雨水冠水は改善され、和田新田堀の水位上昇による周辺の冠水、また、大雨時に白鳥地区の津波防護壁の間から集中的に流れてくる雨水の問題等、これらが大幅に改善する予定です。

和田新田堀が原因では?

この地域の方から、元々は農業用排水路の代替施設として設置された、この和田新田堀に対する不安の声は多くございます。それは、「西原雨水ポンプ場の増設後も、この和田新田堀の整備を行わない限り、冠水の心配は払拭しないのではないか」という声です。

(質問) 整備の基準としている10年確率降雨への対応として、当局はこの堀の断面から、その必要性はないという計算でござります。この和田新田堀のキャラシティを含め整備の必要性がないことにつき、根拠をお示しください。

(建設局) 白鳥地区において、10年確率降雨を排水するために必要な水路幅は、2・5メートルですが、和田新田堀は3メートル以上あることから、現状において十分な能力を有しております。浸水の原因是、流下先である西原雨水ポンプ場の排水能力不足とともに、抜本的な浸水対策には、ポンプの増設が不可欠でございます。

10年確率降雨?

仙台市では仙台市公共下水道新基本計画の中で、下水道の整備水準を10年確率降雨といふことで定めまして、1時間当たり52ミリの雨に対応するよう施設整備を進めていく方針を出しております。

(質問) 関係地域に対し整備状況を含めた冠水対策の説明を求める

(建設局) 現在、この真大な予算をかけても市民には見えずらい、この西原雨水ポンプ場増設の整備中の見学会を含め、関係地域に対し、整備の進捗を説明する必要があります。

(建設局) 令和9年度のポンプ増設完了までは時間を要するため、工事の現場見学会や、この地区の浸水対策事業について説明会を適宜開催し、情報提供に努めます。増設するポンプの供用までの間、大雨時に内水排水ポンプを速やかに稼動させ、浸水を少しでも抑制するとともに、1日でも早く地域の皆様の安全安心が確保されるよう、工事に鋭意取り組んで参る所存でございます。

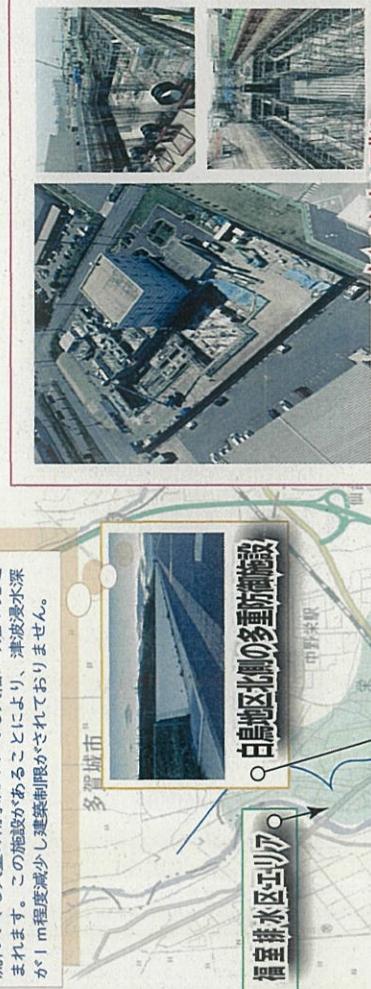
福室排水区の冠水対策

現在、このエリアの抜本的な対策を行っております。根本的な問題は、このエリアの雨水を仙台港に排水する西原雨水ポンプ場の能力不足であり、仙台市は複数年にわたり、莫大な予算を計上し整備をしております。ポンプの増設完了予定期は令和9年度です。
<抜本的な対策>

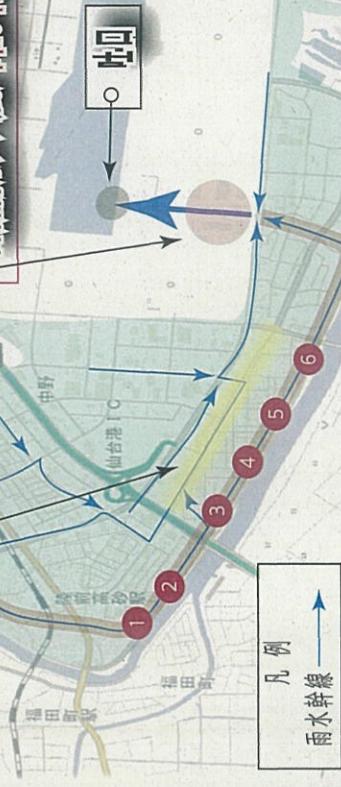
10年確率降雨(52mm/h)において床上・床下浸水を発生させないための対策。

西原雨水ポンプ場の雨水についても大幅に改善が見込まれます。この施設があることにより、津波浸水深刻が10%程度減少し建築制限がさせておりません。

10年確率降雨(52mm/h)



西原雨水ポンプ場は令和9年春を目標に整備着手



机田新田堀(福室へ高砂へ通す)から北へ排水する内水排水施設等

